

## 化粧品業界における容器包装プラスチック使用量について

2022年3月

日本化粧品工業連合会  
サステナビリティ推進委員会

日本化粧品工業連合会(以下、粧工連)・サステナビリティ推進委員会・容器包装部会では、会員企業13社を対象に、容器包装に使用したプラスチックの量を調査し、その結果をまとめました。

### 結果概要

当工業会会員各社は、以前より製品の詰替え・付替え用製品の開発・発売等、容器包装のリデュース、リユース、リサイクルにより、お客様が使用した後で廃棄する容器包装へのプラスチック使用量の削減努力を続けてきました。

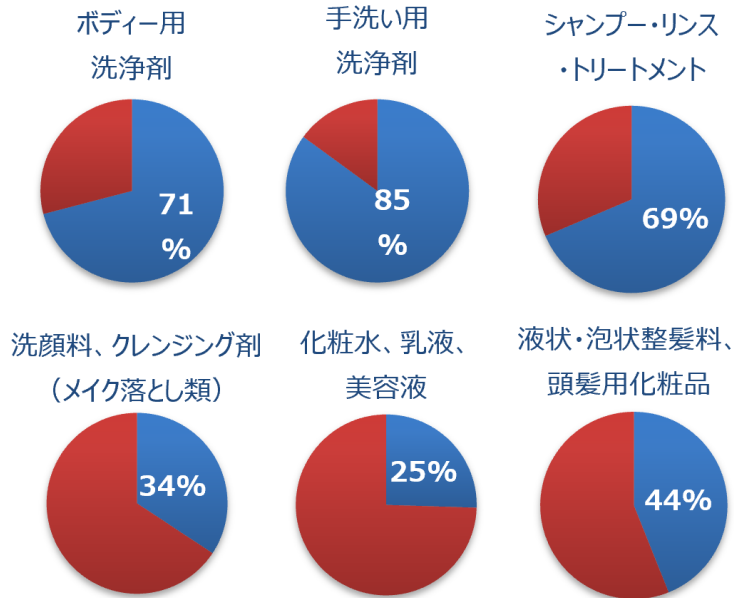
今回、容器包装のプラスチック使用量を削減する努力を「中身を濃縮して一回の使用量を減らし、製品をコンパクト化すること」、「詰替え・付替え用製品を開発・発売すること」と捉え、次の項目の2020年における実態を調査しました。詰替え・付替えによる廃棄物の削減率は58%であり、コンパクト型製品の出荷実績はございませんでした。

調査対象は、プラスチック容器を使用している次の主要6カテゴリです。なお、これらのカテゴリは、化粧品全体重量の86%を占めるものです。

1	ボディー用洗剤
2	手洗い用洗剤
3	シャンプー・リンス・トリートメント(インバス)
4	洗顔料、クレンジング剤(メイク落とし類)
5	化粧水、乳液、美容液
6	液状・泡状整髪料、頭髪用化粧料(アウトバストリートメント)

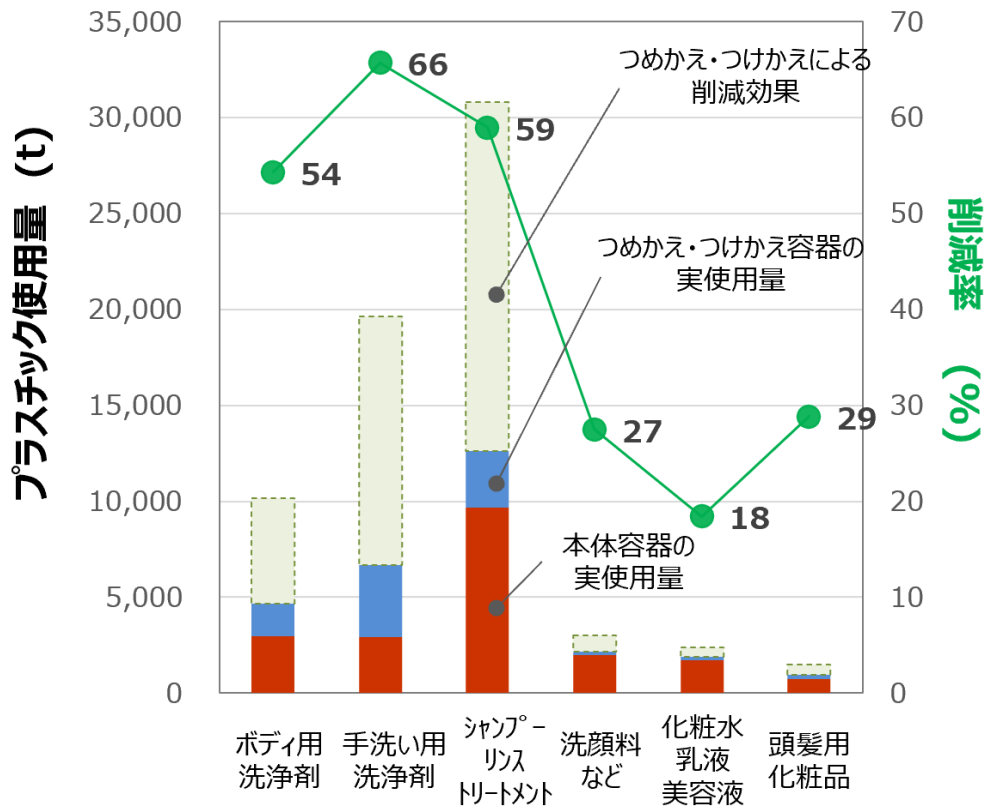
粧工連会員は来年度以降も事業者として容器包装リサイクル法の役割をしっかりと果たすとともに、地球規模の環境問題の解決やプラスチック資源循環にも貢献すべく、リデュース、リユース、リサイクル、リニューアブルへのさらなる取組みを、それぞれの事業の特性を鑑みて継続してまいります。

**①つめかえ・つけかえ製品の出荷割合**  
(全出荷量に対する、つめかえ・つけかえ品の割合)



**②プラスチック使用量の削減効果**

つめかえ・つけかえが全て本体容器で構成される、と仮定したときの容器重量を算出し、実使用量と比較して削減効果を算出



以上